

## チリ 生産者と輸出業者は高品質な生食用ブドウに満足

[The Grape Reporter](#) 2025年3月3日

ウヴァノーヴァ(ブドウに特化した民間の研究開発機関)のラファエル・ロドリゲス会長によると、チリのブドウの開花期の最適な春の天候が、高品質な果実の生産につながっている。

同会長は Freshfruitportal.com(本サイトの関連サイト)に対し、「果実は非常に健全で、品質もサイズも良い。我々は満足している」と語った。(以下「」は同会長の話)

### 生食用ブドウ市場

ロドリゲス氏は、チリの生食用ブドウの主要な輸出先は引き続き米国であり、米国はペルーからもかなりの量を受け入れていると述べた。1月と2月上旬には出荷数量が市場の吸収能力を超えていた。「そのため、米国には多くの果実が溢れている。」

同氏は、ペルーのイカ県はすでに出荷を終了しつつあると述べた。「米国に送る果実は、事実上ほとんど残っていない。」同氏は、先週かなりの雨が降り、これが出荷シーズンを終わらせているが、市場にはまだかなりの量があると付け加えた。冷蔵施設にある場合もあれば、まだ輸送中の場合もある。

同氏は、チリの輸出業者は、他の市場への出荷を多様化することにより、責任あるアプローチを取っていると説明した。

「我々は急いでいないので、3月と4月にかなりの量を問題なく出荷でき、米国への着荷が週に350万箱を超えることはない。」

南アフリカについて、ロドリゲス氏は、輸送の遅延などの物流上の問題により、出荷シーズンは早期に終了するだろうと述べた。同氏は、チリは4月に(南アフリカとの競合がなくなるため)ヨーロッパ市場で好調になると考えている。

一方、インドは、輸送コストの上昇と輸送の遅延、及び国内市場の拡大により、現在、ヨーロッパへの輸送量が減少している。

極東に関してロドリゲス氏は、一部の品種のみが出荷され、最小限の量しか供給されていないと指摘した。「中国は4、5年前とは違い、今では市場が小さくなっている。韓国は非常に順調で、市場が機能しており、韓国での販売プログラムは確立されている。」

同氏はまた、日本は引き続き特別な販売プログラムの対象であると付け加えた。

「全体的には、悪いシーズンではない。現在、米国での供給過剰に対処しているが、サイズが大きく品質の良い果実は需要があるので、我々は楽観的である。」

### システムアプローチ

米国市場向けのシステムアプローチの実績について同氏は、それを大きな改善と前向きな経験と呼んだ。

同氏は、このシステムの下での出荷数量が来年増加すると予想している。「我々は、保管スペース、検査、ロット管理など、多くの物流上の詳細を解決した。そのため、今シーズンはコストが高くなったので、今後はより効率的にしなければならない。」

「システムアプローチに関して進歩が見られた素晴らしいシーズンであり、果実は非常に良好な状態で市場に入荷した。我々はシステムアプローチのさらなる拡大について楽観的であり、それはメキシコ向けについてもうまく機能している。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)